

道徳の時間や学級活動 学校の日

市教育委員会では、豊かな心を育む教育活動の推進を目的として、市内小・中学校の道徳の時間や学級活動の授業を公開します(下表参照)。

学校名	道徳の時間		学級活動	
	実施日	開始時間	実施日	開始時間
吉武小	H24年2月10日(金)	9:45	12月9日(金)	10:50
赤間小	9月9日(金)	9:40	H24年2月10日(金)	9:40
河東小	H24年2月10日(金)	10:50	12月9日(金)	10:50
南郷小	7月8日(金)	9:45	12月9日(金)	10:50
東郷小	7月8日(金)	10:40	H24年2月10日(金)	14:05
日の里東小	9月9日(金)	14:15	12月9日(金)	10:50
日の里西小	12月9日(金)	午前中	H24年2月10日(金)	午前中
自由ヶ丘小	12月9日(金)	10:45	H24年2月10日(金)	10:45
赤間西小	7月8日(金)	14:10	12月9日(金)	終日
自由ヶ丘南小	7月8日(金)	14:10	12月9日(金)	10:45
河東西小	12月9日(金)	9:45	H24年2月10日(金)	9:45
玄海小	7月8日(金)	14:00	12月9日(金)	14:00
玄海東小	H24年2月10日(金)	14:10	11月22日(火)	10:40
地島小	6月10日(金)	9:15	10月7日(金)	9:15
大島小	11月11日(金)	9:25	7月8日(金)	14:20
城山中	H24年2月10日(金)	11:55	7月8日(金)	14:20
中央中	11月10日(木)	12:00	9月9日(金)	15:20
日の里中	9月9日(金)	10:55	12月9日(金)	10:55
自由ヶ丘中	7月8日(金)	10:55	12月9日(金)	11:55
河東中	11月10日(木)	12:00	7月8日(金)	14:20
玄海中	11月10日(木)	9:00	H24年2月10日(金)	14:15
大島中	11月11日(金)	9:25	7月8日(金)	14:15

* 日時変更の場合あり。また、玄海東小の学級活動実施日は「学校の日」以外の公開。11月10日(木)は通常の「学校の日」を実施

■問い合わせ先 教育政策課 ☎(36)5099

世界遺産への道

第30回

沖ノ島と伊勢神宮の比較

伊勢神宮は、日本を代表する神社というイメージを持つ人もいます。文化庁では、伊勢神宮を世界遺産にしようと考えていた時期もありました。史跡として価値があるのか、それとも式年遷宮の行事、つまり無形として価値があるのかを議論しました。

式年遷宮は20年に一度開かれる全国的にも有名な行事で、平成25年には62回目の式年遷宮が開かれる予定です。昭和48年



式年遷宮が開かれる伊勢神宮の敷地

の第60回式年遷宮で廃材となった神明造りの社殿は現在、宗像大社の辺津宮奥にある第二宮・第三宮として建てられ祭られています。

神様は、新しい所、新しい物を好むとされています。つまり、20年に一度新しい住まいに引っ越し、新しい神宝を授けるのです。この考え方は、沖ノ島の祭祀(さいし)も同様で、一度奉獻された神宝は二度と使われることなく、積もりに積もって約8万点の神宝が現在に伝わったものと考えられます。

伊勢神宮内宮から少し離れた場所に、徴古館(ちようこかん)という神様は、新しい所、新しい物を好むとされています。つまり、20年に一度新しい住まいに引っ越し、新しい神宝を授けるのです。この考え方は、沖ノ島の祭祀(さいし)も同様で、一度奉獻された神宝は二度と使われることなく、積もりに積もって約8万点の神宝が現在に伝わったものと考えられます。

伊勢神宮の伝記や神宝を納めた施設があります。神宝の中には、沖ノ島の神宝とよく比較される琴や機織具の他に、三種の神器(鏡、剣、玉)をはじめとする鉄鍬(てつこ)や盾、さし、コルク、ユギなどが展示され、古墳時代の古墳の副葬品や装飾古墳に描かれるものと同等の品が多いことに驚かされます。伊勢神宮の神宝からは、古代沖ノ島の神宝などが現在に受け継がれていることが実感でき、伊勢神宮の祭祀の原点が、宗像大社沖ノ島にあるのではないかと思わ



伝統的な建造物(銀行や郵便局など)が並ぶ伊勢神宮周辺の街なみ

時間旅行ムナカタ

第3回

海人の必須アイテム

「うみんぐ大島」がオープンし、大勢の家族連れでにぎわっています。安全で手軽に海釣りを楽しむ、釣り道具の貸し出しも人気です。

さて、釣りに欠かせない道具を「釣りの六物(りくもつ)」と言い、①さお②糸③ウキ④オモリ⑤針⑥餌が必要とされていますが、糸と針以外は必ずしも必要ではありません。

とりわけ、釣針は大切にされ、日本神話「海幸彦・山幸彦」の挿話でも、兄の海幸彦の釣針をなくした弟の山幸彦が、自分の剣を溶かして新しい釣針を1000本作って兄に差し出しても、兄が許さうとしなかったことが思い起こされます。

そこで今回は、海人族の漁具の一つ、釣針の歴史を探っていきます。釣針は縄文時代から使われ、鹿角製など動物の骨や角で作られたものが各地で見つかっています。宗像地域では、古墳時代の鉄製釣針が海沿いの遺跡を中心に出土しています。

海人文化を掘り起こせ!

釣針編

里の民と釣針の謎

市内陸部の農村地帯である南郷地区の大穂町で、約1400年前の古墳時代後期に作られた円墳・大穂町原(おおほまちばる)遺跡2号墳から鉄製の釣針大小2点が見つかりました。大きい釣針は軸の太さ0.5センチ、長さ4.5センチ以上であることから、海の魚をターゲットにしていると考えられます。

しかし、なぜ海から離れた山里の古墳から海人の道具が出土したのでしょうか。

古代人は、貧しい暮らしをしていたようなイメージがありますが、稲作が伝わってからは飛躍的に安定した生活を手に入れ、現代人顔負けの美食をする機会もあったと思われま



大穂町原遺跡で出土した鉄製の釣針

何を釣った?

まずは、大穂町原遺跡出土の大型釣針を市内の釣具店に持ち込み、何が釣れるのか尋ねてみました。すると、高級魚「アラ」を釣る針にそっくり



0メートル、幅160メートル、深さ3メートルの規模を誇る玄界灘沿岸部で最大の古墳時代貝塚です。この巨大な「ごみ捨て場」は、付近の集落で消費されたものを捨てた程度ではなく、交換物資として海産物加工を専業とする海人集団が活動していたと考えることができます。

とすれば、生産物の広域的な流通ネットワークが既に存在し、その結果として、例えば神湊の海産物と大穂町の米などが交換されるなど、海の民と里の民の間に太い流通ルートが成立していたと見ることもできます。

里の民の古墳に海で使う巨大な釣針が残された背景には、海から山までがコンパクトに収まった宗像地域ならではの社会的な強いいきざながあるのではと考えています。

(文化財職員・白木英敏) ■問い合わせ先 郷土文化学習交流室 ☎(36)1540